

2024 年度 学修行動調査 結果報告（全学科・専攻）

2024 年 9 月

I R委員会 / 教育・学修支援センター

【本報告書の概要】

本報告書は、2024 年度上半期に在籍をしている全学部生(休学者を除く)を対象として、日々の学修行動の様態や成長実感、授業内での経験や授業内容への満足度などを把握するために実施した「学修行動調査」の結果を集計、及び分析したものである。なお、調査は 2024 年 5 月～6 月にかけて、本学の LMS である Moodle を用いたオンライン方式で実施した。

まず、学生の 1 週間の時間の使い方に着目すると、授業や実験の受講時間、授業の予習・復習時間、ともに昨年度より上昇した。なお、個人的な趣味やアルバイトといった学習外の活動に費やす時間も増加を続けている。また、授業内での経験についても昨年度と同水準か増加しているものがほとんどであった。

学生が成長を実感している能力とこれから成長させたいと思う能力については、入学年度ごと(在籍学年ごと)の分析を実施しているが、特段大きな差は見られず、いずれの段階においても「専門的能力」との回答が最多となった。ただし、上級生ほど専門的能力の成長を実感している、あるいはさらに専門的能力を成長させたいと考えている学生が多かった。

また、授業内容の満足度についてはほぼ全ての項目で、昨年度の水準を維持するか、さらに上昇した。対面・非対面(オンデマンド)を問わず、授業の質を維持できているという数値が出ていることは特筆すべき結果であるといえる。

コロナ禍の年度に行った過去の調査では、満足度に関する項目の多くで大幅な低下が見られたが、今年度はほぼ全ての項目でコロナ禍以前の水準に戻る、もしくはそれよりも上昇が見られた。これは、本学において学生と教職員の双方が、コロナ禍以前からの取り組みに加え、コロナ禍で得た知見や経験、そしてコロナ禍以後に新たに得た知見をそれぞれ活かしながら授業の受講、実施、そして大学の運営を行っていることを示すものである。

【2024 年度のデータ回収結果と昨年度の回答率】

*心理・福祉学科は 2024 年度より設置

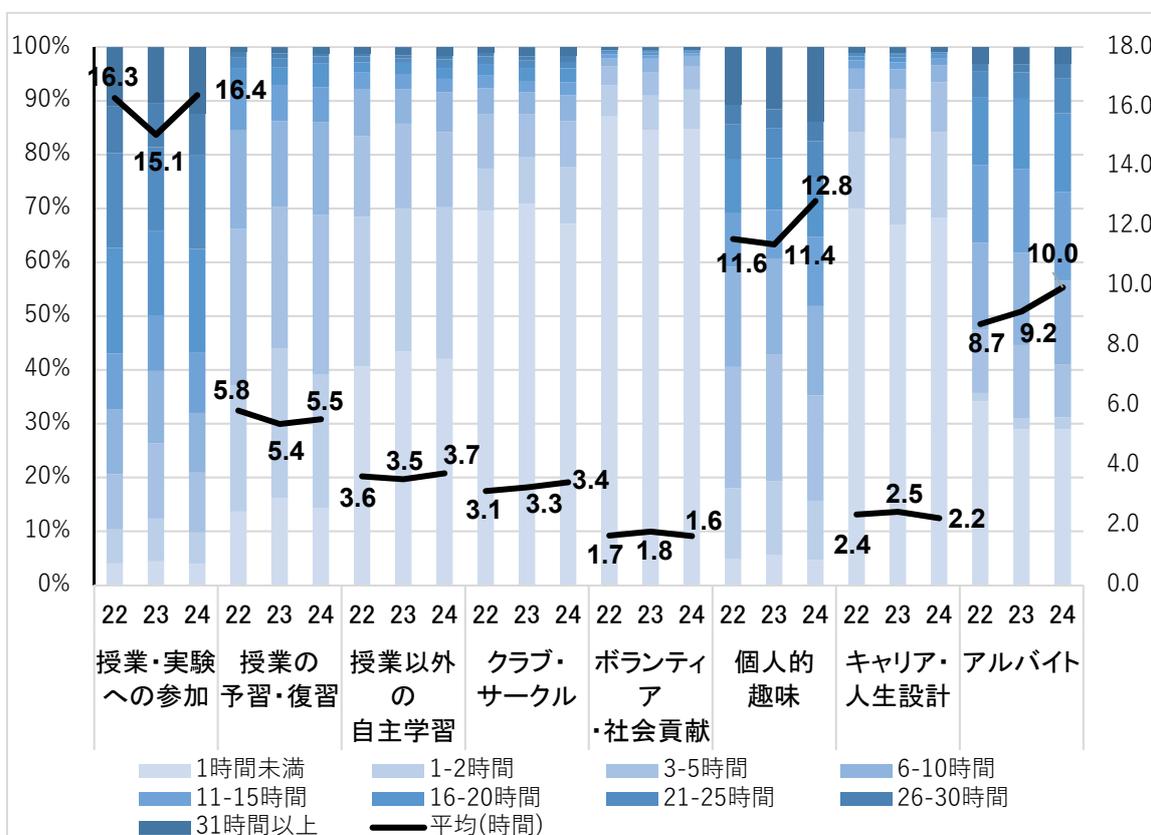
	対象者数	回答者数	回答率(%)	※2023 年度回答率
日本語日本文学科	196	170	86.7	88.9
歴史文化学科	181	118	65.2	84.5
幼児教育・こども保育専攻	211	162	76.8	82.6
学校教育・初等中等教育専攻	277	249	89.9	86.2
特別支援教育専攻	81	47	58.0	88.1
人間社会学科	198	188	94.9	95.9
心理・福祉学科	41	41	100	—*
スポーツ健康学科	419	309	73.7	90.9
薬学科	672	591	87.9	91.1
全学	2,276	1,875	82.4	89.2

(2024 年度調査実施期間: 5 月 20 日～6 月 30 日)

【考察】

・本学ではIR委員会が主導して行う基幹3調査(新入生調査・学修行動調査・卒業時調査)において、回答率の向上を目的としたガイドラインを策定・運用している。今年度はガイドラインに則り、各学科・専攻の回答率の状況を鑑みた上で調査期間を当初の予定より1週間延長した。また、未回答者への督促については教育・学修支援センターが個別に行った他、各学科・専攻のIR委員から、アドバイザー教員(ゼミ教員)に向けて、未回答の指導学生への回答督促を依頼した。これらの施策により、全体の回答率は昨年度よりは若干低下したものの、最終的に80%代を維持することができた。また、心理・福祉学科は今年度の新設学科であったが、特に混乱もなく全員の回答が得られたことは特筆すべき点である。

【I:1 週間の時間の使い方(8項目)】



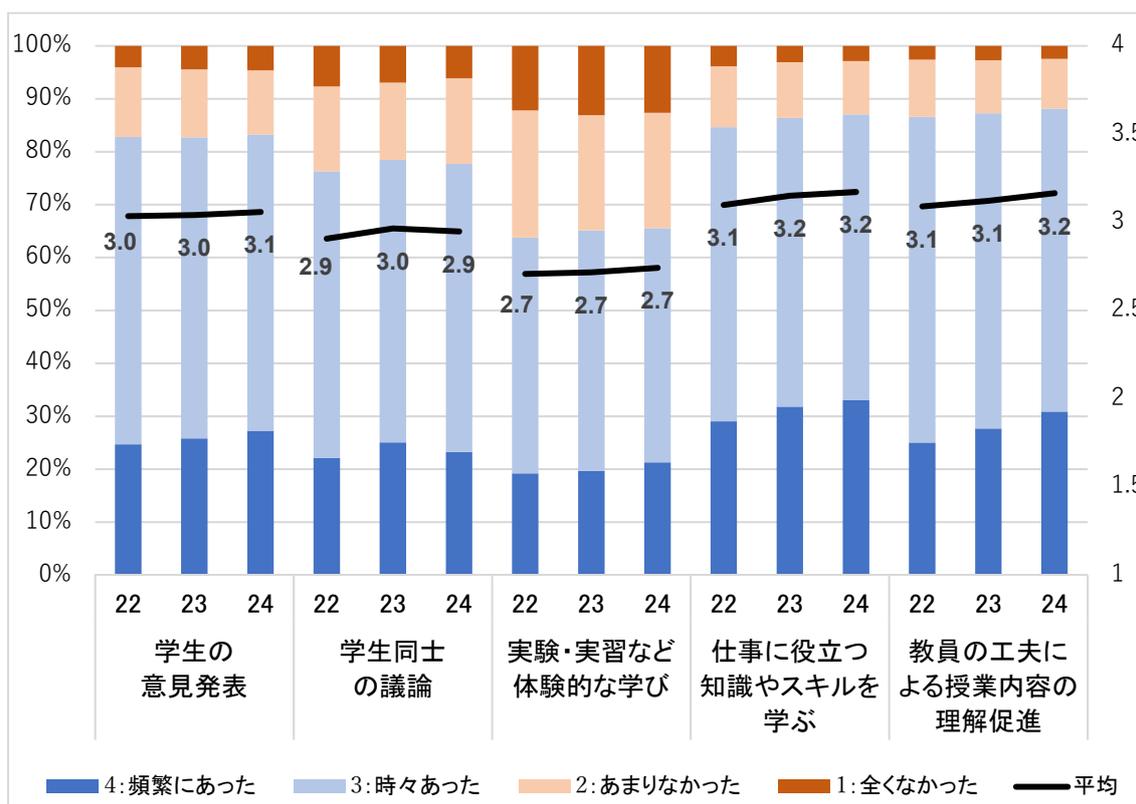
【考察】

・「授業・実験への参加」時間数について、昨年度より1時間以上の増加が見られた。コロナ前(2019年度)の平均時間は15.2時間であったが、その時点と比較しても大きく伸びたといえる。

・「授業の予習・復習」については昨年度まで低下傾向が見られていたが今年度は持ち直しの兆しを見せている。

・その他の項目については多少の増減はあるものの、概ね昨年度と同水準であった。ただし、「個人的趣味」にあてる時間については、昨年度より+1.4時間と比較的大きな幅で増加した。また、「アルバイト」についても一昨年度比で+1.3時間、昨年度比で+0.8時間と年々増加している。

【Ⅱ：授業内での経験(5項目)】



【考察】

・アクティブラーニングに関する設問である「学生の意見発表」「学生同士の議論」「実験・実習など体験的な学び」については、昨年度と比べ特筆すべき増減はなかった。これは、昨年度から一貫して授業の質が担保されている証左であるといえる。

・一方、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」「教員の工夫による授業内容の理解促進」については、わずかながらも増加傾向が見られた。教員の授業改善の取り組みが着実に効果を上げているといえる。

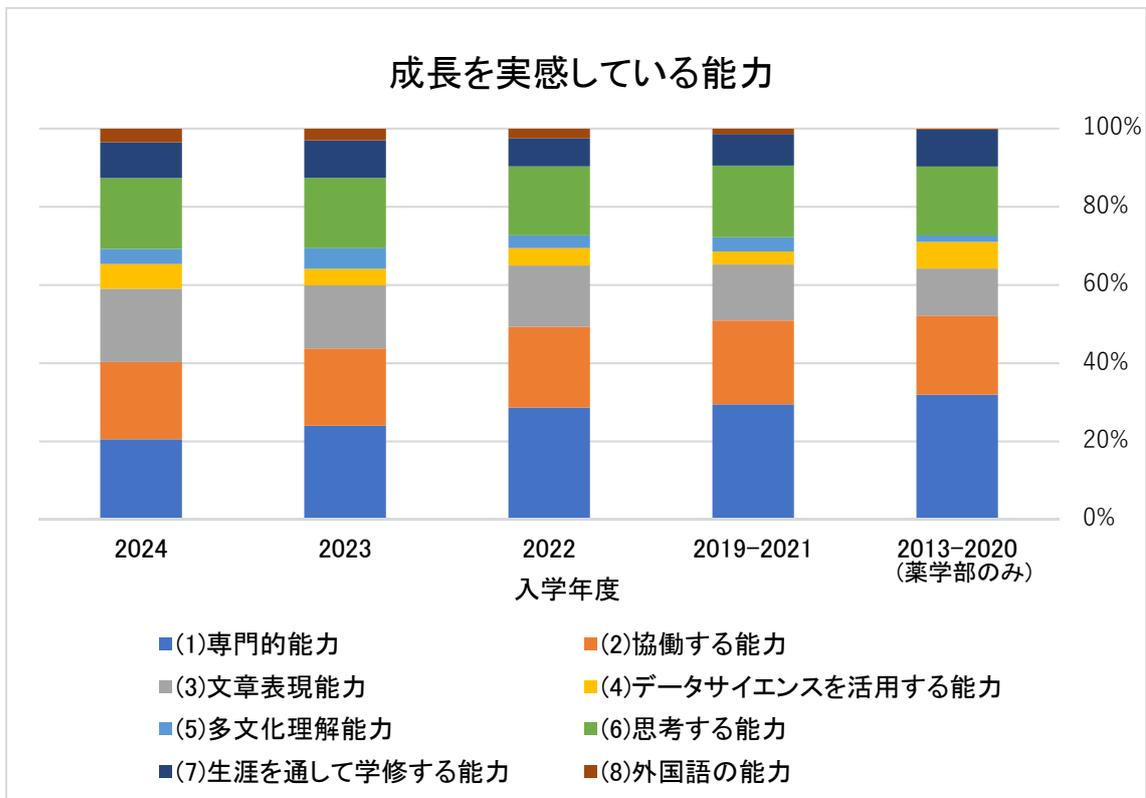
【Ⅲ：成長を実感している能力と成長への満足度】

[Ⅲ・Ⅳのグラフについての備考]

大学入学以降に成長した / これから成長させたい と思っている能力を順に3項目選択する方式を採った。
 なお、グラフの各項目は、回答総数(3項目×回答者数)に占める割合(%)で示しているため、回答者全員が同じ項目を選択して回答した場合の値(理論上の最大値)は33.3%となる。

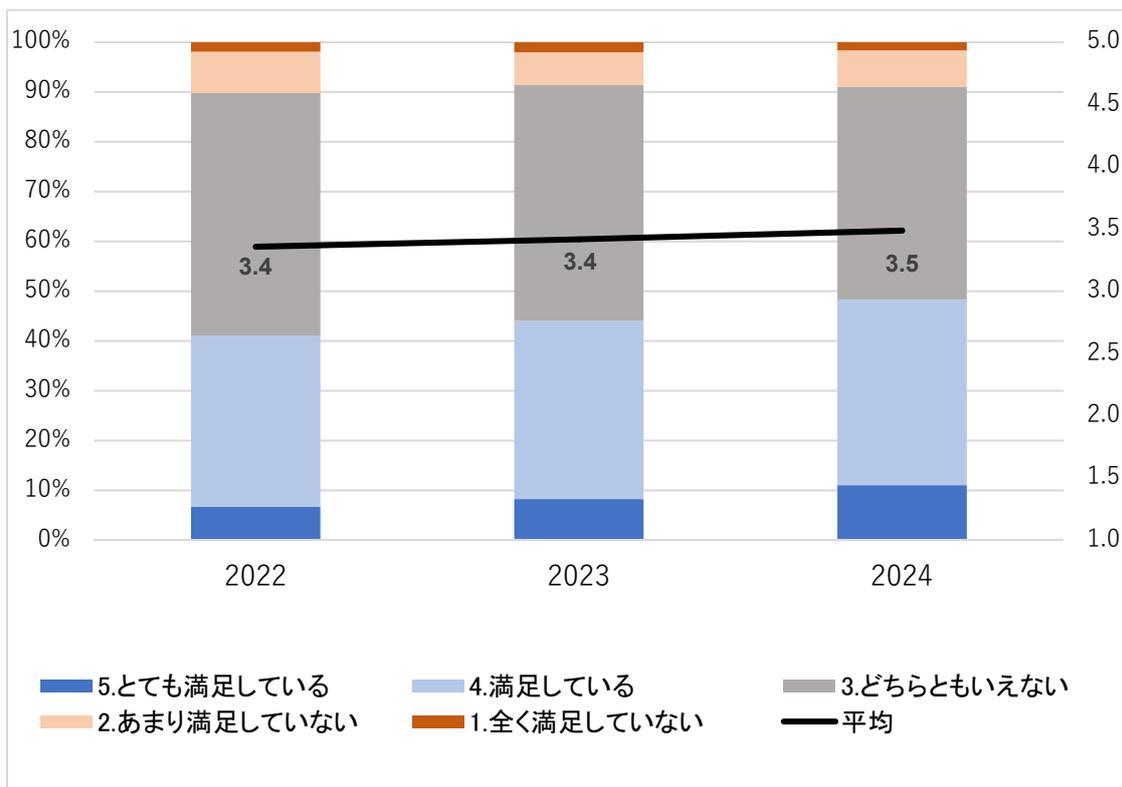
※各能力の概要・例は以下の通りである。

- (1) 専門的能力(例:専門分野についての知識や技能、将来の職業に関する知識や技能)
- (2) 協働する能力(例:人間関係を構築する能力、周りとは協力して課題に取り組む能力、自らの意見をわかりやすく伝える能力)
- (3) 文章表現能力(例:レポートを書く際や試験の際に文章を論理的に書く能力)
- (4) データサイエンスを活用する能力(例:身の回りにある様々なデータを収集し読み解く能力、情報倫理を身につける能力)
- (5) 多文化理解能力(例:グローバルな問題や地域的な課題への理解や関心、異なる文化に関する知識・理解)
- (6) 思考する能力(例:様々な角度や広い視野から物事を捉える能力、解決すべき課題を発見する能力)
- (7) 生涯を通して学修する能力(例:幅広い知識、多面的な物の見方、自ら学修する習慣)
- (8) 外国語の能力(例:外国語でコミュニケーションをとる能力、外国語で読み書きする能力)



(※グラフ右端の「2013-2020」は薬学部の学生のみを集計したデータである)

● 現時点において自らの能力の成長度合いについてどれくらい満足していますか。

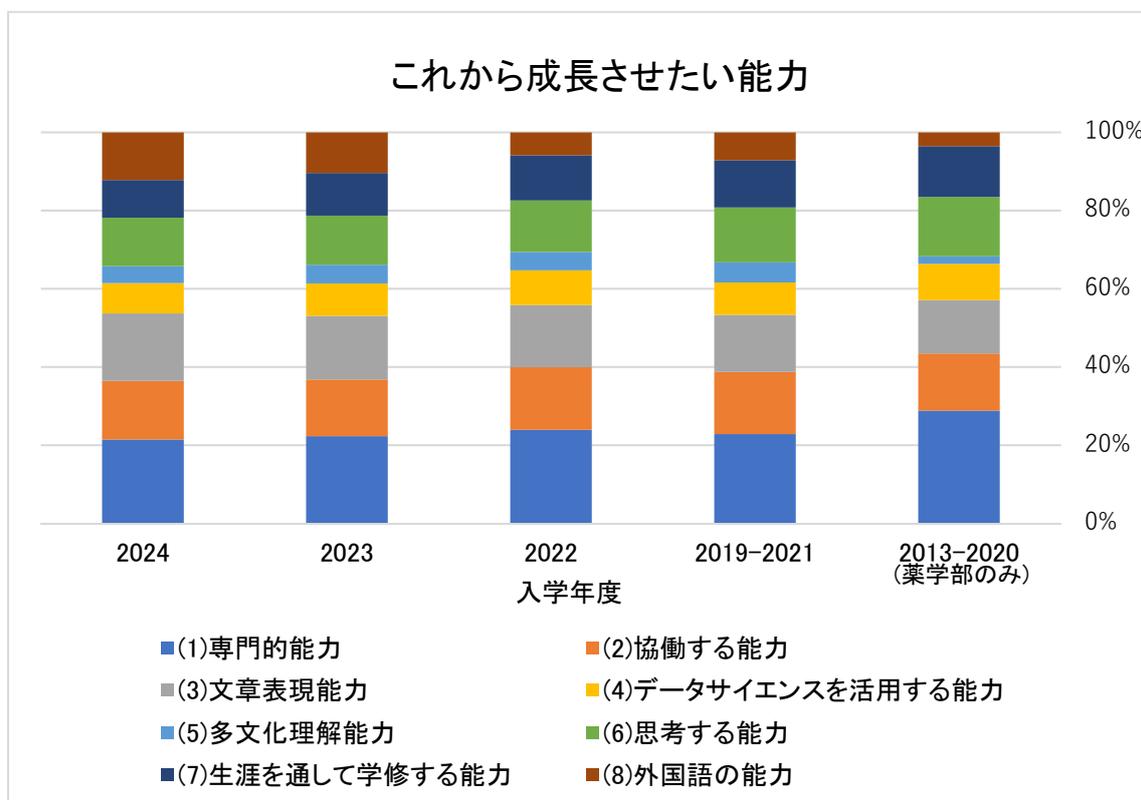


【考察】

- ・本設問は 2020 年度まで「大学入学時と比べて身についた能力・知識」として 17 項目を設定し、「かなり身についた」から「全く身につけていない」までの 5 件法で問うていた設問を、2021 年度より項目数を 8 つまで絞り込み、問い方についても自身が成長したと実感している能力の上位 3 項目を選択する方式に変更し、入学年度ごと(在籍学年ごと)の差を可視化したものである。
- ・結果的に入学年度ごとの能力の伸びの実感に大きな差は認められなかったものの、入学当初は「文章作成能力」や「外国語の能力」、「データサイエンスを活用する能力」の伸びを実感しやすく、進級するにつれて「専門的能力」の伸びが実感しやすくなる傾向が見られた。
- ・「データサイエンスを活用する能力」の成長実感のピークが 1 年生時(2024 年度入学)に集中しているのは 1 年生の前期に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を構成する授業である「コンピュータ技術基礎 I」・「情報薬学基礎」を履修することも影響していると考えられる。
- ・成長度合いの満足度については昨年度と比較して+0.1 平均値の上昇が見られた。また、「とても満足している」が+2.7%、「満足している」も+1.4%と、満足群が連続して順調に増加している。

【IV:これから成長させたいと思っている能力】

※各能力の概要・例はⅢで示したものと同一である。

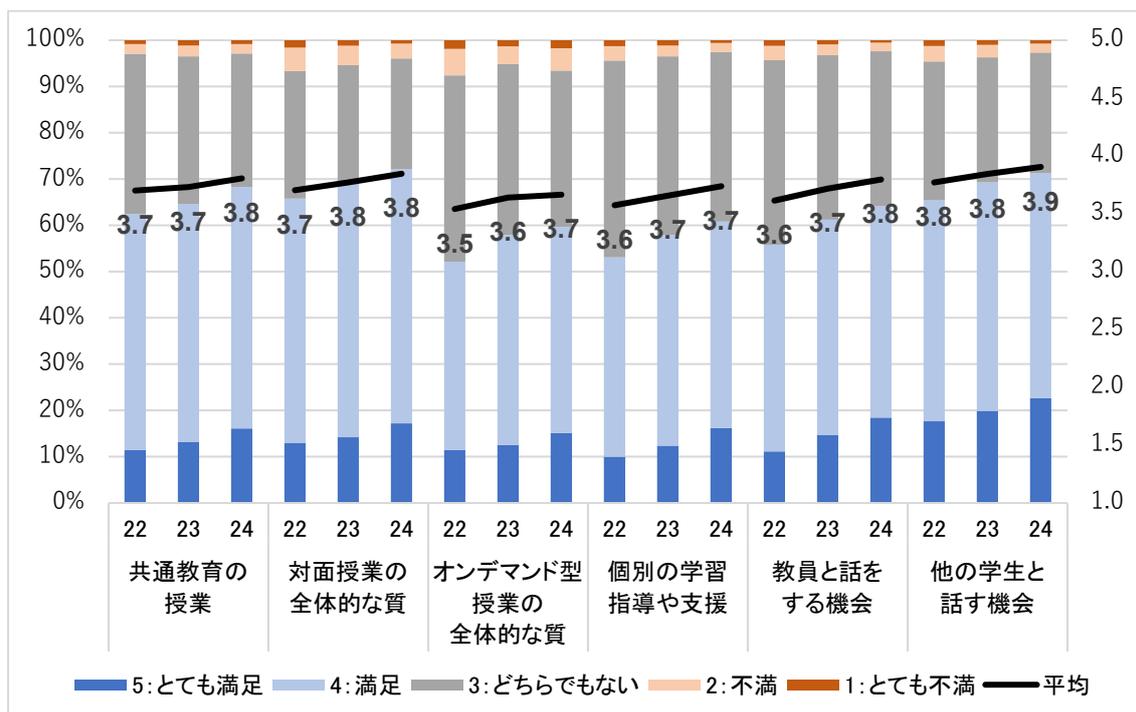


(※グラフ右端の「2013-2020」は薬学部の学生のみを集計したデータである)

【考察】

- ・本設問については 2021 年度より設置している項目である。
- ・大幅な変動ではないものの、在学年数が長くなるにつれて「外国語の能力」を成長させたいという割合が低下し、逆に「生涯を通して学修する能力」を成長させたいという割合については上昇する傾向が見られた。これは昨年度、一昨年度と連続して見られる傾向である。
- ・その他の能力については入学年度ごとの差は見られなかった。
- ・「外国語能力」については、成長実感を持つ学生は少ないが(p.4)、一定程度の割合で成長させたいと考えている学生がいることが明らかとなった。

【V:教育内容の満足度(6項目)】



【考察】

- ・昨年度より全体的に回復(上昇)傾向を見せており、今年度も維持している。
- ・今年度「オンデマンド型授業の全体的な質」については、調査フォーム内に「オンデマンド型授業を受講していない」という選択肢を追加した上で当該選択肢を選んだ者については集計から除外したため、より実情に近い結果が得られた。対面授業においてもオンデマンド型授業においても、一定以上の質を担保し、且つ質の向上を続けられているといえる。

以上